

2019年 10月 2日

「単純X線検査における Deviation index を用いた撮影線量の精度管理に関する
後ろ向き研究」へのご参加のお願い

— 2017年 5月から 2017年 9月までに当院において

単純X線検査を受けられた方へ —

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日制定 平成29年2月28日一部改正）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

単純X線検査におけるDeviation indexを用いた撮影線量の精度管理に関する後ろ向き研究

2. 研究期間 2018年3月から 2021年2月

3. 研究機関 産業医科大学病院 放射線部

4. 実施責任者

産業医科大学病院放射線部 医療技術職（診療放射線技師） 高木 剛司

5. 研究の目的と意義

現在、単純X線検査は従来のフィルム撮影の代わりにデジタル撮影が主流となっています。デジタル撮影は画像処理によりいかなるX線量であっても適切な濃度へ自動調整を行えますが、この結果、放射線技師は画像の劣化を避けるため最適な撮影条件より多い条件を設定する傾向があり、X線量が従来よりも増加していることが報告されています。最近、新しいX線量の評価方法であるDeviation index(DI)が提案され、撮影された画像のX線量の適性度を把握することが可能となりました。当院においてもDIを用いてX線量を決定していますが、DIを用いた線量管理の有用性についてはまだ明らかにされていません。この研究では、DI導入前後の画像および撮影条件について

て比較評価を行います。この研究結果の成果は、検査時に利用する放射線の最適化に役立てられます。

6. 研究の方法

【対 象】

2017年5月から2017年9月までに当院で単純X線検査を受けた患者さん

【方 法】

産業医科大学病院にて2017年5月から2017年9月までに単純X線検査を行った患者さんの画像情報から撮影条件に関する情報を取得し、DIを用いないで撮像していた従来法のX線量と、DIを用いた撮影条件から得たX線量を比較し、そのバラツキを統計解析で評価します。

7. 個人情報の取り扱い

対象者を特定できる個人情報は、一切公表しません。画像データを院内サーバーから取り出す際には、被験者が特定できないように患者ID、氏名、検査日などの個人情報は削除して全て匿名化します。

この研究の実施や得られた成果を学会や論文などに発表する場合には、個人を特定できる氏名、住所などの個人情報は一切使用いたしません。また、解析したデータは研究終了後に5年間保管した後匿名化を確認した上で廃棄します。

本研究に該当する方で、ご自身の診療データ等の使用を希望されない方は、下記担当者へお申し出下さい。その場合、収集データは廃棄いたします。

8. 問い合わせ先

産業医科大学病院 放射線部

所在地：〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

電 話：093-603-1611 内線 3009

氏 名：高木 剛司

職 名：医療技術職

9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。本研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。